

給食納付金(給食費)の改定について

1 経緯

現行（令和7年度）の給食納付金（以下、給食費という。）は、給食食材費の平均一食当たり単価を303円と想定して設定したが、予想を上回る食材価格の上昇により、令和7年度1学期（4月から7月まで）実績に見る単価は332円であった。このような状況を踏まえ、令和8年度の給食費を以下のとおり改定する。

2 改定額（案）※網掛け部分

区分			月 額	年 額 (11 か月)	一食当たり 単 価	改定率（月額）
小学校	低学年	現行	4,600 円	50,600 円	274 円	14% (増)
		改定後	5,244 円	57,684 円	312 円	
		差額	644 円	7,084 円	38 円	
	中学年	現行	4,887 円	53,757 円	291 円	14% (増)
		改定後	5,571 円	61,281 円	332 円	
		差額	684 円	7,524 円	41 円	
	高学年	現行	5,174 円	56,914 円	308 円	14% (増)
		改定後	5,898 円	64,878 円	351 円	
		差額	724 円	7,964 円	43 円	
中学校	全学年	現行	5,520 円	60,720 円	338 円	14% (増)
		改定案	6,292 円	69,212 円	385 円	
		差額	772 円	8,492 円	47 円	

※年間給食実施回数（小学校一年生を除く） 小学校 185 回 中学校 180 回

※年間給食実施回数（小学校一年生） 179 回

※小学校1年生4月分月額 現行 2,740 円（274 円×10 回） 改定 3,120 円（312 円×10 回）

3 改定額（案）の算出

(1) 改定月額

改定月額は、「現行月額 ×（100%＋改定率）＝改定月額」とします。

例）小学校高学年の場合

$$\begin{aligned}
 5,174 \text{ 円} \times (100\% + 14\%) &= 5,174 \text{ 円} \times 114\% \\
 &= 5,898.36 \text{ (切り捨て)} \\
 &\div 5,898 \text{ 円}
 \end{aligned}$$

(2) 一食当たり単価

改定一食当たり単価は、改定月額を基に年額を算出し、年間給食実施回数（小学校 185 回、中学校 180 回）で除して得た額とします（小数点以下を切り上げ）。

(3)改定率

改定率は、14%(増)とします。

改定率は、給食材料費平均単価の推移（前年度比）を踏まえて設定しています。

令和7年度単価については、令和6年度の給食食材費単価293円に過年度の前年度比（以下「前年度比」）の平均値103.5%を乗じて303円と設定しましたが、令和7年度1学期の実績は332円と想定を上回る結果となりました。

このことを踏まえ、現状の適正な単価を332円（令和7年度1学期実績）とみなし、これに前年度比の平均値103.5%を乗じて算出した344円（端数繰り上げ）を令和8年度単価（見込み額）として設定します。

今回の改定率14%は、この令和8年度単価344円を現行単価（令和7年度当初予算ベース）303円で除して得たものです。

ア 改定率の算出

$$\begin{aligned}\text{令和8年度単価} \div \text{現行単価} &= 344 \text{円} \div 303 \text{円} \\ &= 1.13531\cdots \\ &\div 1.14 \text{（繰り上げ）}\end{aligned}$$

※過年度においては、次年度単価を算出する際の改定率を小数点以下第1位まで設定していたが、10%以上の大きな変動が見込まれる場合は、ブレ幅も大きくなり得ることから、小数点以下は四捨五入した形で設定する。

イ 給食食材費平均一食当たり単価年度別一覧

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		令和8年度 (見込み額)
					当初	1学期実績	
給食食材費 平均1食当たり単価 (前年度比)	264円	270円 (102.2%)	283円 (104.8%)	293円 (103.5%)	303円 (103.5%)	332円 (113.3%)	344円